

デジタル化成功事例・取組事例

株式会社 塩澤製作所（業種：製造業）

URL : <https://siozawa.co.jp/>

企業概要		事業概要	企業理念
資本金	1,000万円	<ul style="list-style-type: none">精密機械加工ダイカスト製品製造	「恒心」正しい心 いつわりのない心 純粋な心 創業者である塩澤良人（故人）が、戦前から戦中にかけて、東京・蒲田にて機械工として訓練を受けていた時代に学んだ事を基にしています。当時の訓練から【恒産無き者恒心なし】という孟子の言葉、そして【恒心】の心でモノづくりに励む大切さを知った創業者が、1960年の創業以来この「恒心」の気持ちを大切にモノづくりそして経営に取り組んできたことから、「恒心」のココロでモノづくりに取り組み続けることを全ての従業員の共通の認識としたいという考えのもと企業理念として2000年（平成12年）に制定しました。また具体的に持つべき心を「正しい心」「偽りのない心」「純粋な心」という三つに分解し、行動の基本となるよう示しています。
従業員数	35名 ※2025/1現在		
代表者	塩澤 和彦		



デジタル化を進めた背景・抱えていた課題

当社はこれまで多品種少量生産を中心としたものづくりを行ってきました。高精度加工や難加工案件への対応力を強みとしてきた一方で、その品質を支えている技術や判断の多くが、現場担当者の経験や感覚に依存しているという実態がありました。作業手順や加工条件、段取りの工夫、トラブル時の対応方法などが体系的に整理されておらず、十分に言語化・共有されていない場面が見受けられました。その結果、担当者が不在の場合に判断が滞る、新人教育に時間を要する、同じような確認や説明を繰り返す、といった状況が発生していました。また、改善活動を実施しても、その内容が記録として蓄積されにくく、組織として再現・展開する仕組みが十分とはいえない点も課題でした。品質の安定や生産性向上を継続的に進めていくためには、個々人の力量に依存する体制から、仕組みによって再現性を確保できる体制へと移行する必要があると認識しました。さらに、今後の人員構成の変化や技能継承の課題を見据えたとき、暗黙知のままでは持続的な組織運営が難しくなるという危機感もありました。技術を「人に紐づくもの」から「会社の資産」として残す仕組みづくりが不可欠であると感じていました。

デジタル化成功事例・取組事例

導入したソリューション・工夫したポイント

【導入したソリューション】

マニュアル作成・共有システム「Teachme Biz」

【工夫したポイント】

ツールを使うことがゴールではなく、生産活動の再現性を高め、品質を安定させるための手段として位置づけました。そのため、「どの機能を使うか」ではなく、「どの業務を標準化すべきか」「どの課題を解決したいのか」という議論を優先しました。また、作成したマニュアルは一部の管理者だけでなく、現場の全員が手元で確認できる環境を整え、口頭伝達や個人の経験に依存しない運用を目指しています。

導入の効果・成果

作業手順や判断基準を写真や動画とともに整理したことで、これまで個人の経験に依存していた内容が共有可能な情報として蓄積されるようになりました。その結果、不明点が生じた際に、まず **Teachme Biz** を確認するという行動が現場で定着しつつあります。確認の基準が「人」から「標準」へと移り始めている点は、大きな成果の一つです。また、手順を可視化する過程で工程のばらつきや判断基準の曖昧さが明確になり、改善すべきポイントが具体化しました。標準を更新しながら課題に対応できる環境が整い、継続的な改善の基盤が形成されつつあります。さらに、AIによるマニュアル作成支援機能の導入により、動画情報から原稿の下書きを作成できるようになり、作成時間が大幅に短縮されました。これにより、マニュアルの整備と更新を継続しやすい体制へと移行しています。取り組みはまだ途上ではありますが、標準を軸に業務を確認し、改善を積み重ねていく仕組みが着実に根付き始めています。

これからデジタル化に取り組む企業へのメッセージ

当社も、まだまだ完成には程遠い状態です。正直に言えば、手探りで進めている部分も多くあります。それでも、どこかで始めなければ何も変わらないと思い、小さな作業から取り組みを始めました。すべてを整えてからではなく、目の前のものづくりを少しでも安定させることを意識しながら、できることを一つずつ進めています。完璧な仕組みをつくることよりも、毎日の業務や現場の判断が少しでも迷わなくなることを目標にする。その積み重ねが、少しずつ形になってきていると感じています。私たちもまだ道の途中です。難しい加工に向き合うのと同じように、一つずつ確実に前へ進む。その歩みを、これから取り組まれる企業の皆さまと共有できればと思います。